

令和7年度

華服飾専門学校

職業実践専門課程

学校関係者評価委員会資料

2026年3月23日

基準項目ごとの学校自己評価及び学校関係者評価・意見

基準1 教育理念・目的・育成人材像

自己評価結果

【2025年結果】

<結果>

1) 伝える力を養う

1年生両学科について・企業の協力を得た面接指導の練習では現2年生より好評。
目を見て話す。相槌をうち聞く。自分の意見を言える等。

2) 協働して目標を達成できる力を養う

①ピギーズの企画・実行②篤華祭ファッションショー向け衣装の制作

<課題>

授業課題の発表会は聴衆を意識せず話す学生がほとんど今後の課題。

協働作業に加わらない1部の学生への今後の指導方法検討

【委員会 ご意見】

模擬面接で企業との接点作り、同年代との比較のため外部への発信する取り組み良い（塚田委員）

伝える力は社会人基礎力の点で重要。個人差あるもグループワークで習得できます（椿委員）

模擬面接は緊張感も保て良い。協働作業も個人の役割を明確にし責任感を持たせる（野田委員）

【2026年対応】

- ・引き続き各種授業や発表会で自分の考えを伝える機会を設ける
- ・企業の協力をえた面接指導の継続実施。

基準2 学校運営

自己評価結果

【2025年結果】

<結果>

1) 入学者を増やすことを大前提に全ての取り組みを行いました。

- ・ファッションショーは34ルックス。練習期間を長くし、ウォーキングなどの質も向上。
- ・BEAMS 内定や「スタイリングコンテスト準グランプリ」入賞など優秀な学生がいる一方で自傷する学生、入学後数カ月で不登校の学生。卒業延期の学生等両極化。
- ・就職内定しても、欠席多く卒業見込みがたたない学生数名。就職を希望しない学生も以前より増加。

<課題>

- ・退学を未然に防止すること。
- ・出口（就職）もスムーズに進捗せず次年度も改善が必要。

【委員会 ご意見】

通信サポート校を受け入れざる得なくとも退学に繋がるなら、入学選抜は厳格にすべき（塚田委員）

在学中の学びの魅力化はできている気がします。次の一手を考えましょう（椿委員）

留学生は多すぎると母国学生でかたまる。適度だと日本人とも交流しコミユカあがる（北里委員）

不登校の学生はやりがいを与える。インスタの活用。シンプルすぎる（野田委員）

【2026年対応】

- ・AO 事前勉強会など入学後も学校になじみやすい環境作りを行う。
- ・少人数の教員で授業運営、就職、日常の学生管理、募集活動を行うため、仕事の精査と個々の能力アップが必要。。

・学生増のためには留学生の募集活動も継続。足で稼ぐより学園として組織的な取り組みが必要。

基準3 教育活動

自己評価結果

【2025年結果】

- ・スタイリストのインターン以外にVMDのインターン、就職に直結したインターンで内定など結果充実。
- ・一方で、早期に内値するも内定後不登校になる学生など新たな課題も発生。
- ・クリエイター科2年生の「ソーイング」授業数増加と担当教員変更により充実。
- ・授業欠席の学生多数、連続した講義や演習ができていない。

<課題>

- ・「ファッションセンスの向上」には服の構造を知ることが大切でトレンドの勉強が必要。
- ・様々な取り組みも肝心の学生が欠席しがちである。

【委員会 ご意見】

学内と現場の違いを知り気付きをえる場を設けることはよい（塚田委員）

専門教育以外に学校としての在り方が大切。学生がOCの案内をするのも良い考えです（椿委員）

スタイリストはインターンが数倍吸収が早い（野田委員）

【2026年対応】

- ・両学科共にスキルの向上のため「服飾造形」の授業を強化。
- ・学制数減少に対する合理化のため1年生授業を統合化。

基準4 学修成果

自己評価結果

【2025年結果】

「学友会」を発足し学生主体での学校内外含めたファッションショーなど企画・運営を実施。

学園祭ファッションショーも外部評価良好。学生数減少とマンパワー不足で今後は維持に課題。

- ・スタイリングの外部コンテストで入賞1名（準グランプリ受賞）。

<課題>

- ・学園祭ファッションショーも外部評価良好。学生数減少とマンパワー不足で今後は維持に課題。
- ・高校生の観覧者はごく少数。学園広報部の宣伝告知遅い。
- ・検定試験はものにより合格率低迷。取得意識の違いが鮮明化

【委員会 ご意見】

- ・同規模の学校と合同ファッションショーを開いてはどうか（塚田委員）
- ・物作りは学修の基本。SNSもファッションならではの発信、表現方法も学習内容の1つです（椿委員）
- ・ショーは地方の高校生向けに生配信すべき。検定は持っているとは有利と教えること（野田委員）

【2026年対応】

- ・外部コンテストには今後も積極参加。
- ・学生主体でのファッションショーなど企画・運営は継続。
- ・ファッションショーは外部にPRする格好の場であり、評価の対象ともなるのでより注力する。
(高校生の動員を広報へ依頼。関係者も動員する方法を検討。)

基準5 学生支援

自己評価結果

【2025 年結果】

メンタル面で弱い学生等、課題がある学生が増加し担任教員の精神的負担も大きい。
学生本人と面談し保護者への連絡など退学防止に努めているが専門家でないため限界がある
カウンセリングの2回目研修を3月に服飾校職員で受講。

<課題>

メンタル面で弱い学生等が今後も増加傾向。

他校ではカウンセラーの在籍は効果あり常駐化へのとの情報。学園としての継続的検討課題

【委員会 ご意見】

早期退学しそうな学生の入学抑制か入学後の早期退学を抑制するかを選択（塚田委員長）

学生の対応は丁寧な感じがします。カウンセラーとの連携が必要です（椿委員）

事故がおきる前にカウンセラー導入すべきである。いまや中高でも当たり前にいる時代（北里委員）

メンタル弱い学生を特別扱いしない。「大丈夫？」より「これ一緒にやってもらえる？」などスキンシップ有効（野田委員）

【2026 年対応】

- ・服飾校としてカウンセリング研修を継続実施し対応方法など学習する。カウンセラー常駐が学園として本来必要。
- ・不登校になりがちな学生には個別に対話を繰り返し2年間で卒業できるように対応する。

基準6 教育環境

自己評価結果

【2025 年結果】

<結果>

・パソコン・CADは本校では設備が整わないため、他校への協力も視野にいれ検討。日程・（他校への）移動時間・（借用する）費用を考慮すると現実的ではない。さらには自校で所持しない理由など「学生募集」では入学生に対するメリットは少ない。

・来年度より、数十年使用してきたマシン等の更新を中期的に行う。

・いまや学校でのWi-Fi環境は必須である。

服飾校単独で学費以外に徴収した教材費でクラス分だけレンタルし導入した。

<課題>

・トイレの設備をみても20年前の設備ゆえ、競争が激しくなる中で他校に対し見劣りする。生活に密着する設備は重要。募集にも影響は大。オープンキャンパス参加者のチェックポイントの一つとなり、学生からの声も上がっている。

【委員会 ご意見】

早期退学しそうな学生の入学抑制か入学後の早期退学を抑制するかを選択（塚田委員長）

学生の対応は丁寧な感じがします。カウンセラーとの連携が必要です（椿委員）

事故がおきる前にカウンセラー導入すべきである。いまや中高でも当たり前にいる時代（北里委員）

メンタル弱い学生を特別扱いしない。「大丈夫？」より「これ一緒にやってもらえる？」などスキンシップ有効（野田委員）

【2026 年対応】

- ・30年来使用のマシンなど更新を優先的に数年かけて行う。
- ・授業では欠かせないプロジェクターなどの機器も増やす（更新）。

基準7 学生の募集と受入れ

自己評価結果

【2025年結果】

<結果>

- ・30年来使用のミシンなど更新は5年計画の3年目で入れ替え実施。
- ・最低限で機器を購入し、他校との差を少しでも埋める。電子黒板購入、プロジェクター更新。

<課題>

- ・高校内ガイダンスへの参加回数が少ない。
- ・常勤教員数が少なくガイダンス参加は授業変更を伴うケースが発生。
- ・競合校の後藤学園はトイレ改修済。差別化広がる。学園に継続提案。

【委員会 ご意見】

PC環境もないのは高校よりレベルダウンで募集に影響する（塚田委員）

ICT環境がないのは（学生募集や教育面で）厳しいです。（椿委員）

PCは入社後も必須。ミシン含め設備は教育環境としてPRにもなる（北里委員）

授業もスタイリストなど、リアルを聞くのが一番良い。インターンにも有効（野田委員）

【2026年対応】

- ・オープンキャンパスでは実習体験を通し、在校生と接触の機会を増やす。
- ・早期退学者防止も兼ね、AO入学者対象に入学前の事前学習会を実施し入学者間での融和を図る。
- ・若手職員をできるだけ活用し高校での模擬授業に参加。

基準8 財務

自己評価結果

【2025年結果】

<結果>

- ・オープンキャンパス内容を見直し、来年度募集に向け早期にホームページ等告知。
- ・SNSの発信に注力。パンフレットをリニューアル。

<課題>

- ・マンパワーの不足は否めず。授業変更し模擬授業・ガイダンス参加。限度あり。

【委員会 ご意見】

現状の環境が変えられない以上は、この分野への投資が必要です（塚田委員）

高校生は学生を見ている。学友会がショーなど運営するのはとてもよいことです（椿委員）

全国の学生にPRし母集団を増やす。保護者目線で学習環境や寮をアピールする（北里委員）

OCは楽しいかどうか、雰囲気、先生との距離を見ている。いかに学生が学校の良さを伝えられるか（野田委員）

【2026年対応】

- ・入学者をまず増やすことで収入を増やすことが先決。
- ・快適な作業環境として、校舎の美化・設備投資も重要であり、検討する。

基準9 法令等の遵守

自己評価結果

【2025年結果】

<結果>

特になし。

【委員会 ご意見】

なし

【2026 年対応】

継続し、在校生の注意すべき疾病などの情報を講師と共有する一方で、その他個人情報など（安易に）開示することがないように意識を高め管理して行く。

基準 10 社会貢献・地域貢献

自己評価結果

【2025 年結果】

<結果>

SDGs に関する取り組みをクリエイター科 1 年生クラス対象に実施。

学園内の協力を得て古着回収しリメイクに取り組む。

学校・駅周辺もボランティア清掃は継続実施。

<課題>古着の回収しリメイクは取り組んだが、縫製技術が不足し限界。

課題を多く残した。

【委員会 ご意見】

- ・鶯谷駅周辺での貢献活動は広報活動にもつながります（椿先生）

【2026 年対応】

- ・ボランティア清掃は継続実施。
- ・台東区の「学びのキャンパスプランニング」へはメニュー提案済み。
- ・継続し SDGs にかためた取り組みができるか検討。

総合（その他）

自己評価結果

【2025 年結果】

- ・学友会の発足等、教育面でも時代に反映し学校の魅力度アップと教育の質の向上を意識し取り組みだした。講師、カリキュラム見直しなど。

【委員会 ご意見】

- ・自己評価が低いのは入口と出口。改善するには 2 年間どうするかを再考してはどうでしょう（椿委員）
- ・小学校からタブレットを使う時代。遅れをなくすべき。パンフはみやすく良い（野田委員）

【2026 年対応】

地道な取り組みであるが、カリキュラムの見直し、講師の再編を行い実力がつき学生の満足度があがる内容を目指す。

大きな目標は 2 つ。①スキルを身につけること ②人を育てる。